



九月(小) ながつき 長月 柳宿

九月八日白露の節より
月命辛酉七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧七月大
旧八月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六種	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	土	ひのえさる	七赤	二百十日、関東大震災記念日、防災の日、富山八尾風の盆(3日迄) 旧七月大	廿二	佛滅	たつ	氏		5.13	18.09	8.09	20.08
2日	日	ひのと	六白		廿三	大安	のぞく	房	十	5.13	18.08	9.05	2.06
3日	月	つちのえいぬ	五黄	●下弦 一時三七分、旧地藏ぼん	廿四	赤口	み	つ	心	5.14	18.06	10.21	2.49
4日	火	つちのと	四緑	敦賀気比神官祭、三隣亡	廿五	先勝	たい	いら	尾	5.15	18.05	10.21	2.49
5日	水	かのえ	三碧	一粒万倍日	廿六	友引	さ	だ	箕	5.14	18.06	10.21	2.49
6日	木	かのえ	二黒	不成就日	廿七	先負	と	る	斗	5.15	18.05	10.21	2.49
7日	金	みのえとら	一白		廿八	佛滅	や	ぶ	る	5.16	18.04	10.21	2.49
8日	土	みのえとら	九紫	白露 一時三〇分、太田呑竜開山忌、一粒万倍日	廿九	大安	や	ぶ	る	5.17	18.01	10.21	2.49
9日	日	きのえ	八白	重陽、多賀大社九月古例祭、救急の日	卅	赤口	あ	や	ぶ	5.18	17.59	10.21	2.49
10日	月	きのと	七赤	●朔 三時〇一分、旧八朔 旧八月小	朔	友引	な	る	危	5.19	17.58	10.21	2.49
11日	火	ひのえ	六白	二百二十日、二日灸、不成就日、東京芝天神宮しょうが市(21日迄)	二	先負	お	さ	ん	5.20	17.55	10.21	2.49
12日	水	ひのと	五黄	福岡管崎宮放生会(18日迄)	三	佛滅	ひ	ら	く	5.21	17.53	10.21	2.49
13日	木	つちのえ	四緑	世界の法の日、天しゃ、一粒万倍日	四	大安	と	づ	壁	5.22	17.52	10.21	2.49
14日	金	つちのと	三碧		五	赤口	た	つ	妻	5.22	17.51	10.21	2.49

残暑はまだまだ厳しいが、それでも月半ばを過ぎると朝夕涼気を感じよう。この季節、夏場の疲れが表面化したり、暑さのために消化器系統が弱つていたり、とかく健康を害しやすい。健康管理に十分に留意しないと、思わぬ重病になることがある。

また立春から数えた「二百十日」や「二百二十日」があるが、これは農作(稲の開花期)と台風の関係を表している、注意を喚起するようににしたわが国独特の呼称である。

【冠】九月九日は五節句の最後「重陽(九)という数字を陽数とした陰陽術による)の節句」と呼ぶように、この日は酒に菊花をひたして飲み、健康長寿を祝うならわしも伝えられている。

【婿】この月から秋の結婚シーズンが始まる。挙式に続く新婚旅行にも快適な気候である。ただ、それだけ

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六種	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	土	かのえ	二黒	老人の日、老人週間(21日迄)、岸和田だんじり祭、京都石清水八幡宮祭	六	先勝	のぞく	胃	百事吉	5.23	17.48	10.51	17.49
16日	日	かのと	一白	鎌倉鶴岡八幡宮やぶさめ	七	友引	み	つ	鼻	5.24	17.48	11.49	17.48
17日	月	みのえ	九紫	●敬老の日、八せん始め	八	先負	たい	いら	畢	5.25	17.46	12.44	17.46
18日	火	みのと	八白		九	佛滅	さ	だ	ん	5.25	17.45	13.35	17.45
19日	水	きのえ	七赤	岩手水沢駒形祭、子規忌、三隣亡、不成就日	十	大安	と	る	参	5.26	17.43	14.23	17.43
20日	木	きのと	六白	神奈川寒川神社例祭、空の日、一粒万倍日	十一	赤口	や	ぶ	る	5.27	17.42	15.06	17.42
21日	金	ひのえ	五黄	秋の全国交通安全運動(30日迄)	十二	先勝	あ	や	ぶ	5.28	17.40	15.45	17.40
22日	土	ひのと	四緑	動物愛護週間(20日~26日)	十三	友引	な	る	柳	5.28	17.39	16.22	17.39
23日	日	つちのえ	三碧	●秋分の日、秋分一〇時五四分、彼岸中日、川柳忌、社日	十四	先負	お	さ	ん	5.29	17.37	16.55	17.37
24日	月	つちのと	二黒	振替休日、十五夜、結核予防週間	十五	佛滅	ひ	ら	く	5.29	17.36	17.42	17.36
25日	火	かのえ	一白	○望 一時五二分、庚申、一粒万倍日	十六	大安	と	づ	翼	5.30	17.34	18.29	17.34
26日	水	かのと	九紫	彼岸明け、和歌山日御・国懸祭	十七	赤口	た	つ	軫	5.31	17.33	19.02	17.33
27日	木	みのえ	八白	小田原道了尊大祭、不成就日	十八	先勝	のぞく	角	軫	5.32	17.31	19.02	17.31
28日	金	みのと	七赤	八せん終り	十九	友引	み	つ	亢	5.33	17.30	19.37	17.30
29日	土	きのえ	六白	曹洞宗兩祖忌、甲子	廿	先負	たい	いら	氏	5.34	17.29	20.15	17.29
30日	日	きのと	五黄		廿一	佛滅	さ	だ	ん	5.35	17.27	20.58	17.27

くても心労が重なった直後だけに、ハードなスケジュールに出るにせよ心遣い、一生の思を持ちたいものである。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「秋分の日」を中心とした七日間が秋のお彼岸である。先祖に感謝し精霊の供養や墓前の香華の手向け等を行う。暑さ寒さも彼岸まで、暑さの時もまず越えたいものといえよう。

【祭】九月一日は「防災の日」これは大正十二年のこの日関東一円を襲った大地震によって、未曾有(みぞう)の災害が出たために、災害の怖さを銘記するために定められた日である。

この月の下旬、旧暦八月十五日は「十五夜の望月」というのは、七月を初秋とい、八月を仲秋、九月を晩秋とい、その八月の十五夜が満月だからである。

「敬老の日」九月第三月曜日(平成十五年施行)。社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日。また十五日が「老人の日」、十五日から二十一日までは老人週間(平成十四年施行)である。